

「日の出まつり」（白鳥八幡宮例大祭）

令和3年2月22日(月)、渡良瀬遊水地にほど近い小山市大字白鳥にある白鳥八幡宮の例大祭である「日の出まつり」が行われました。1965年(昭和40年)に「白鳥八幡宮古式祭礼」として、小山市の無形民俗文化財の指定を受けています。名前の由来は、毎年旧暦の1月11日の早朝に、日の出とともに行列が神社に向かい神事が行われたことによるものです。祭りの内容は、ここ20年近くの間はかなり簡素化されましたが、旧暦の1月11日の開催は今でも変わりなく、今年は2月22日が旧暦の1月11日にあたることから、この日に開催されました。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年までと比べて人数を少なくするなどの配慮がなされました。神事後、恒例の「鬼面射弓」（まず拝殿入口、次に鳥居に吊り下げられた鬼の面に向かって、篠竹で作った矢をウツギの木を束ねて作った弓で射る）が行われました。

